

元気な農業を 実現する

食を支える生産基盤

ため池、水路、田んぼに農道。そして作物を栽培する農家の人々。何気なく田舎で目にする一つ一つが日本の農業を支えています。これらをつくり、維持していくことが農業農村整備事業の役割です。



「食」の未来を支える元気な農業

日本の食料の自給率は40%。食料の半分以上を輸入に頼っています。世界の国々では、経済成長するにつれて、食料の需要が増えます。これからも、日本は大量の食料の輸入を続けることができるでしょうか。食料の輸入競争が起こるかもしれません。

安全で安心な「食」を確保するためには、日本の農業が元気なことが基本です。いま、国、地方自治体、農業者などが協力して元気な農業を実現するために、「人」「農地」「水」の三つのテーマに取り組んでいます。

農業を営んでいる方々の高齢化が進み、後継者が減っています。一方で、

新しいビジネスチャンスをつかんで元気な農業を実現している方も増えてきました。このような未来の農業を担う人々を育てる取り組みが進んでいます。

担い手が元気な農業をするには、それを支える施設が必要です。大型の機械を使って効率的な農業ができるように農地を大きな区画に整え、品質のよい作物をより多く収穫できるように水を導く用排水施設を作っています。このような農業を支える施設を整える事業を「農業農村整備事業」と呼んでいます。

元気な農業の実現

人

元気な農業の
担い手を育てる
～経営体の育成～



農地

大きな区画で
効率的な農業を
～大区画整備～



水

必要な水を確保して
品質の良い作物を
～用排水整備～



元気な農村を支える農業農村整備事業の役割

農業を支える施設のしくみ

お米や野菜は水田や畑で育ちます。しかし、それだけでは農産物は作れません。

農産物を作るには水が必要です。

水を貯めて、水田や畑まで、水を導く水路が必要です。また、農作業で使う機械や収穫した農産物を運ぶための道路も必要です。

これらの施設に支えられ、農作物が作られています。



① 水を貯める (ダム・ため池) ② 水を導く (水路・堰) ③ 農地を整える (ほ場整備) ④ 道を整える (農道)

日本は雨が多く水に恵まれています。雨が降る時期が集中しているため、水を上手に使うには水を貯めなければなりません。全国にため池は約21万か所もあります。

ため池やダムに貯められた水は、堰から水路を通じて水田や畑まで導かれていきます。全国の農業用の水路は、約40万kmもあります。

機械を使って効率よく稲作をするには、水田を大きな四角に整える必要があります。一区画が1haを超えるような水田もあります。

機械を農地まで運んだり、新鮮でおいしい野菜や果物を出荷するには、道路が必要です。農村と都市を結ぶ農道は、新しい産地づくりや交流にも使われています。